

離任挨拶（ブラジリア、2016年9月23日）

離任の挨拶を申し上げます。このたび帰国命令を受け、10月上旬にブラジルを離任致します。在任期間中、ご列席の皆様をはじめ、ブラジル中の日系社会から沢山の支援・協力を頂いたことに、心から感謝申し上げます。

2014年、FIFA・ワールドカップ・ブラジル大会では、レシフェ、ナタウ、クイアバ、サンパウロの日系社会が、日本チームの応援と邦人の安全を支えて頂きました。同年8月、安倍総理御夫妻のブラジリア訪問時、この庭で皆様に暖かく迎えて頂きました。

日伯外交関係樹立120周年の2015年、ブラジル全国で500以上の記念行事が開催されました。秋篠宮同妃両殿下はブラジル6州9都市を訪問され、連邦政府、連邦議会、州知事等との行事に加え、各地で日系社会の皆様と心温まる交流をされました。この公邸での両殿下と皆様の交流は、私達夫婦にとってもかけがえのない大切な思い出です。ブラジリアでは、連邦下院、連邦上院、連邦区議会での公聴会を含め37の記念行事が行われました。

本年のリオ・オリンピック・パラリンピックでは、リオに加え、マナオス、サルバドール、セルジッペ、サンパウロの日系社会の協力を頂きました。特に、深刻な事件・事故もなく、オリンピック・パラリンピックを成功裏に終えるこ

とが出来たことは、各地の日系社会の支援のお蔭であり、心より感謝しております。

オリンピック・パラリンピックの次回開催国である日本にとって、リオの成功はとても重要でした。安倍総理のオリンピック閉会式参加、パエス・リオ市長から小池東京都知事へのオリンピック・フラッグとパラリンピックフラッグ引き渡し等、日本がリオの成功に貢献できたことを誇らしく思っております。

私は、この月曜日にリオから帰って来ました。7月後半からの大半の期間、オリ・パラ関係業務、安倍総理等日本の要人に対する、ブラジルの政治・経済危機と将来展望の説明に専念しておりました。私のブラジルで残された時間があまりなく、本日の式典が盛りだくさんになってしまったことをお詫び申し上げます。

私は、在任期間中、「日系社会との連携強化」を大使の最重要業務の一つと位置付けてきました。2年7ヶ月の在任期間中、76回出張、連邦特別区を含めブラジル27州のうち18州を訪問させて頂き、温かく迎えて頂きました。本日の会合には、ブラジリアのみならず、トカンチンス州、ゴイアス州、ミナス・ジェライス州からも参加いただいております。各地への訪問を通じてよく理解できたことは、ブラジルが大国である事、日系社会がブラジル各地の発展に大きく貢献をされているのみならず、ブラジル全土の親日感醸成、日本文化

の普及に大きく貢献されていることです。

現在、ブラジルは歴史的変革期に直面しています。私は、ブラジルの将来にとって、良い意味での大変化が起こりつつあると信じています。この変化をしっかりと見届ける役割は、後任大使にバトンタッチしますが、私もブラジルの友人として、大きな期待を持って変わりゆくこの大国の将来を見ていきたいと思っております。

最後に、「特別な人的絆」を有する日本とブラジルの関係が、今後益々発展すること、皆様の御健勝を祈念し、私の離任の挨拶とさせていただきます。本当に有難うございました。

9月23日 駐ブラジル日本国特命全権大使 梅田邦夫